

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 教育課程編成によって幅広い履修と多様な選択機会を提供し、生徒の学習希望に応えとともに、知識技能を活用し探究する学習の充実を図り特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>② 生徒の学習意欲を向上させ、各教科における基礎的・基本的な学力を高めるとともに、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度や意欲を養う。</p>	<p>① 大学入学者選抜改革を見据え、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニングの視点による学び)の確立に向け、教員の授業改善と指導力向上を組織的、計画的に進める。</p> <p>② 生徒の家庭学習習慣を確立させるとともに、学力向上へ向けた組織的な取組を行う。部活動の終了時間および下校時間の厳守の徹底を図り、学習時間を確保する。</p>	<p>① 外部機関が実施する授業改善のための研修会や他校で実施される研究授業等に参加し、授業改善に資する。教員相互の授業見学について2人以上の見学を行い、シート等を用いて積極的に意見交換等が行える環境を整える。</p> <p>② 「学力向上職員研修」の研究授業を外部への発信も含めより充実した内容となるように工夫していく。</p> <p>③ 全校集会等で生徒に対し学習に対する意識を高める働きかけを行う。また、小テスト、週末課題等の組織的な実施による家庭学習の定着を図る。</p> <p>④ 補習対象生徒の保護者、担任、部活動顧問の連絡を徹底する。</p>	<p>① 授業の公開や2人以上の授業見学を組織的に実施できたか。</p> <p>② 各学期の成績、定期テスト等の成績から学習習慣と学力の定着がみられたか。</p> <p>③ 保護者、担任、顧問の間で連携が図られたか。</p>	<p>① 後期に教科の枠を超え2回以上の授業見学を実施し、授業改善の意識を高めた。</p> <p>② 家庭学習の必要性について働きかけ、意識を高めた。</p> <p>③ 指名補習の生徒については通知を出し担任、保護者ともに連絡の徹底ができた。</p>	<p>① レッスンクラスが1・2年に固定されているので、全学年での展開が図られることが課題である。</p> <p>② 年度始めに各教科において課題の出題頻度、小テストの実施頻度について調査を行い内容についてまとめたが、検証ができていなかったので次年度への課題としたい。</p>	<p>① 綿密な計画を立てて組織的な取り組みが行われていることは評価される。他人の授業を相互に見て交流をし、足りないところは何か、お互いに批判しあうことも学校全体の授業力を高めるという点で良い取組みである。</p> <p>② アンケートについてはきめ細かく検証し、生徒の理解が深まっているか否か、また定期テストが1回減じられたことと全体の学力の変化等注視していきたい。</p>	<p>① 新しい大学入試、新しい指導要領を見据えた授業改善への取り組みが着実に展開出来ている。</p> <p>② 生徒の家庭学習習慣については、さらにその質・量とも増やしていく指導が必要である。課題の与え方・家庭学習終了後の振り返り等について学校全体で研究することが課題である。</p>	<p>① PDCAサイクルのCを拡充することが肝要となる。3月に総括的な研修をすることが出来ないか検討したい。</p> <p>② ドリル形式の課題だけでなく、自分で問題(テーマ)を発見し、それを丹念に調べ、資料を作成し、できれば発表までできるという自学自習型の家庭学習の取り組みなども必要である。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>① 生徒の規範意識を醸成させる指導体制と個に応じた相談体制を充実させ、安心して生活できるよう支援する。</p> <p>② 部活動や委員会活動を通じて、個々の生徒がその興味関心を深め、より主体的で豊かな学校生活を送るよう支援する。</p>	<p>① 職員間の意思疎通を図りながら、生徒一人ひとりの困り感やニーズを把握し、課題の解決に当たる。</p> <p>② 生徒会活動全般を生徒自らが興味関心を深め、自主的・主体的に取り組めるように支援する。</p>	<p>① クラス掲示資料、職員会議等で生徒指導の内容やルールを周知し、共通認識の基で指導を進める。情報交換会議やケース会議を開催し、職員が情報を共有しながら個々の生徒の事情に応じた生徒指導を行う。</p> <p>② 体育祭・文化祭・球技大会等の生徒会行事を通して、生徒組織を核として生徒が自ら進んで自主的・主体的に取り組むよう指導していく。</p>	<p>① 学校全体の一貫した生徒指導体制が確立できたか。</p> <p>② 諸活動を支援することにより生徒の自主性・主体性は十分に伸張できたか。</p>	<p>① 年5回の情報交換会議での情報共有により、生徒個々の課題に対応した指導ができた。</p> <p>② 生徒の諸活動を支援することによって、生徒自身が進んで自主性・主体性を伸張することができた。</p>	<p>① 情報交換会議は年間5回では若干少ないので、年間計画の中でさらに回数を多く設定したい。</p> <p>② 今後も生徒諸活動を支援することで生徒自身がリーダー性を身に付け、自らが新企画に着手して自主性や主体性を伸張させる指導を行う。</p>	<p>① きめ細かな生活指導が実践されており、いわゆるいじめ問題もごく早い段階でその芽を摘み、良好な教育環境を作り出せている。</p> <p>② 文科省からの新しい指示で練習時間がタイトになるなどの問題が考えられるが、引き続き座間高らしい部活動と生徒諸活動を充実させる取組みをお願いしたい。</p>	<p>① 学校全体の一貫した指導体制はほぼ確立し、ベテランも若手も同じような歩調での個に応じた生徒指導が出来ている。</p> <p>② 引き続き、学習面と部活動の両立を第一に考え、生徒の高い入部率を維持し、生徒諸活動の支援を充実させる。</p>	<p>① 生徒の問題行動についてどう関わり合いを持ったらよいか等について研修の機会を持つことを検討する。</p> <p>② 新しい部活動のあり方について、座間高らしい生徒諸活動を充実させる研修を行う。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	① ・学力の定着と問題解決能力の向上を図り、生徒一人ひとりが自らの意志と責任でよりよい選択をするための力を身につけることを目標とする。	① ・「キャリアデザインプログラム」により、生徒一人ひとりが自らの意志と責任でよりよい進路を選択するための力を身につける。 ・進路に関する的確な情報提供により、生徒一人ひとりが自らの意志と責任でよりよい進路を選択するための力を身につける。	① ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、生徒個々の主体的な活動を、学年に応じて、1学年「将来を探る」、2学年「分野を選ぶ」、3学年「進路を決める」ことをテーマに、段階的に展開していく。 ・進路に関する的確な情報をキャリア通信等で提供し、パソコンやインターネットを活用した進路指導や面談を実施する。	① ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、ガイダンス、模擬授業や課題研究を、各学年で計画的に実施するとともに、模擬試験等の結果の振り返りを面談で有効に活用することで、生徒のキャリアデザイン力が高まったか。 ・進路指導や面談を通して、明確な進路目標を持つ生徒が増えたか。	① ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、大学の模擬授業を行った。 大学の授業にじかに触れることで、身をもって大学で学ぶことの意義・喜び・素晴らしさを体験した。 ・各学年のキャリア通信による的確な情報の提供により、明確な進路目標を持つ生徒が増えた。	① ・今後も生徒の希望を可能な限り組み入れた形で行っていききたい。 ・キャリア通信によるよりの確な情報を把握・提供し明確な進路目標を持つ生徒を今以上に増やしたい。 ・進路指導を行うための進路指導室のパソコン等の環境を今以上に使用しやすいように整備していききたい。	① ・全生徒に進路結果で開示可能な部分を公表し、進路意識を高めることにつなげてもらいたい。 ・きめ細かく情報を生徒に提供する努力を地道に行っていることは座間高の伝統になり評価できる。学校独自の取り組みも今後必要になる。 ・新校舎完成に伴って、さらに設備の充実ができることよい。	① ・各学年に4月に配付するキャリアデザインハンドブックという冊子に掲載という形で生徒に公表している。 ・「キャリアデザインプログラム」に基づき、行っている大学模擬授業について、より生徒の希望を可能な限り組み入れた形で行っていくよう努力していききたい。	① ・大学模擬授業については、生徒の希望を可能な限り組み入れた形で行っていくようにするため、多くの大学の出張授業などの情報を把握し、早めに連絡を取り合うようにしていく。
4	地域等との協働	① ・本校で学習した生徒の能力や教員の様々な知識や能力を積極的に地域に還元することで、開かれた学校づくりを展開する。	① ・生徒に地域貢献活動の意義を理解させ、学年・部活動単位で活動を企画実施できるようにする。 ・地域の方々のニーズが高い公開講座を企画運営する。	① ・地域貢献デーを11月(雨天の場合12月)に1年生全員で実施する。また7月・3月に2・3年生の代表が地域貢献活動を行う。 ・部活動単位の地域貢献活動を引き続き計画・実施する。 ・公開講座「スコレーの楽しみ」(新シリーズ)の企画・実施をする。	① ・生徒に地域貢献活動の意義を周知・理解させた上で、各学年や部活動で活動を展開することができたか。 ・住民満足度の高い公開講座を企画・実施できたか。	① ・「地域の中に学校がある。」ということを理解させたうえで、座間駅からの通学路・近隣町会の街路清掃を行うことができた。 ・公開講座で今年度より新シリーズ「リフレッシュダンス」を企画実施することができ、好評を博した。	① ・企画がマンネリ化しており、新しい企画を考えねばならないが、労いの声を掛けていただくことで、「地域の中の学校」を認識する生徒も多く、当面はこの形を続けたい。 ・新企画の周知(実施日・内容)が後手になったので、来年度はもっと早くから広報したい。	① ・年1回では生徒の意識づけとしては不十分かもしれない。ただ住宅の中にまで入ってよくやっていただいている。地域の者と一緒にできないか、検討が必要である。 ・地域の回覧版などでも企画の周知について協力できるので連携ができる。	① ・企画については定着しており、地域からも一定の評価を得られているので、引き続き清掃活動を継続実施するが、2・3年のふれあい清掃活動については見直して新たな貢献活動を実践したい。 ・公開講座の新シリーズは大変好評であり、継続して実施していききたい。	① ・新企画の企画立案と実施を図る。 ・地域自治会や市の広報などで広範な広報活動を展開する。
5	学校管理 学校運営	① ・事故・不祥事の防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力を一層向上させる。 ② ・生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化する。	① ・引越し時の文書管理を含め、校内の業務における事故・不祥事防止に組織的に取り組み、事故・不祥事を未然に防止する。 ② ・防災訓練を実施し、生徒の学校生活中における防災意識の向上を図るとともに、安全行動の実践を図る。	① ・月1回以上の事故防止会議やグループ会議、学年会等の様々な機会を通して、事故・不祥事の防止に対する職員の意識向上を高める。 ② ・防災訓練を2回以上行い、さらに災害図上訓練(DIG)を実施し、生徒の防災意識の涵養を図る。 ・授業時間以外(学校行事・部活動など)の活動において避難経路の周知徹底を図り、防災意識の向上を図る。 ・新校舎に移転する際、避難経路の変更を的確に素早く、生徒に周知を図る。	① ・事故・不祥事ゼロを実現ができたか。 ② ・防災訓練を2回以上行い、さらに災害図上訓練(DIG)を実施し、生徒の防災意識が高まったか。 ・授業時間以外の時間帯に1回以上防災訓練を実施し、生徒の防災意識が高まったか。 ・新校舎移転時に的確に素早く、避難経路をクラスに掲示し、生徒に周知できたか。	① ・職員会議や朝の打合せ等を通し事故・不祥事防止に対する意識向上に努めた。 ② ・避難訓練2回、災害図上訓練を1回行い、東日本大震災から数年たち、風化してきたという防災意識を高めた。 ・放課後、教員が近くにいない状況での避難訓練を行い、生徒の自主的な避難行動の意識を高めた。	① ・今年度、外部講師による事故不祥事防止研修を開催できなかったため、来年度は早い段階から外部講師による事故防止研修会を企画し、開催する。 ② ・今後も防災訓練を定期的に実施していく必要がある。回数を増やすことは授業時間数の問題で難しいため、内容を工夫し、防災意識を高める必要がある。 ・新校舎への移転が終了し、ある程度避難経路などが整理された。	① ・学校全体で、事故不祥事に対する意識を向上させ、事故不祥事を防ぐような取り組みを徹底して行ってもらいたい。 ② ・近隣との協力がより必要であろう。抜き打ちの防災訓練、避難所運営ゲーム(HAG)を行うなどの工夫をして防災訓練の有効性を高めることが望ましい。	① ・事故・不祥事ゼロを実現することができたが、まだ、小さなミスが起きているのが現状である。 ② ・授業中だけでなく、放課後の教員が近くにいる状態での防災訓練、3月のDIG研修は非常に有効性がある。しかし、もう一歩踏み込んで、抜き打ち防災訓練、共助を観点において避難所運営ゲーム(HAG)の検討などより工夫された防災訓練を行い、防災意識を高めることを模索したい。	① ・ミスがゼロとなるよう職員一同の意識を向上させるためにも、定期的な事故・不祥事防止研修会を実施し、来年度は外部講師による研修会を実施する必要がある。 ② ・新しい企画を検討するため、抜き打ち防災訓練や避難所運営ゲーム(HAG)を行っている他校などの例を研究し、企画立案していくことが必要である。